

歯周病とおなかの赤ちゃんの関係

「妊娠中は歯周病になりやすい」とか「出産後は歯が悪くなる」などと言われ、かつては「一子を得ると一歯を失う」とも言われました。実際、様々な原因で妊娠中のむし歯や歯周病のリスクは高くなります。妊婦さん自身はもちろん、おなかの赤ちゃんのためにも、十分な口腔ケアが必要です。

■妊娠性歯周炎をご存知ですか？

妊娠中は、「つわり」による食嗜好の変化や歯磨きの困難さ、胎児の発育による食事回数の増加などにより、口腔ケアがおろそかになりがちです。また、女性ホルモンが急激に増加すると、プレポテラ・インターメディアという歯周病原性細菌が増殖しやすくなります。また血管の透過性も高まり唾液の粘性も高まるため、お口の中の自浄性が低下し、歯肉の炎症や出血がおこりやすくなります。これを妊娠性歯周炎と呼びます。

■歯周病とおなかの赤ちゃん

2005年に切迫早産で低体重児を生んだ妊婦は、正常妊娠・正産期の人に比べて、歯周病菌が約4.5倍も多かったと報告されています（北海道医療大学歯学部古市保志教授の疫学調査）。また、歯周病の妊婦は、そうでない妊婦に比べ、早産や流産に生る確率が7.5倍高くなるという研究報告もあります（UCLA大学歯学部マイケル・ニューマン教授）。

妊婦さんが歯周病にかかっている場合、歯周病患部から毒素や炎症を引き起こす物質が血液中に入って全身に運ばれ胎盤に刺激をあたえると、胎児の成長に影響を与えたり子宮の収縮を促して、早産につながるとされています。

妊娠がわかったら、おなかの赤ちゃんのためにも、お口の中のケアにはくれぐれもご注意ください。

■妊婦歯科検診

妊娠中はむし歯や歯周病になりやすくなっていますが、これらの初期症状に自分からは気づきにくいものです。つわりが治まる4〜5カ月頃に歯科検診を受けて、比較的体調の安定した妊娠中期に、必要な歯科治療を済ませたいものです。もちろん、できるだけ妊娠の前に、むし歯、歯周病の治療を済ませておくことも重要です。

歯科治療に当たっては、母子健康手帳を提示して産婦人科医から注意を受けていることは、必ず歯科医師に伝えましょう。出来るだけ楽な姿勢で治療を受け、体調や気分が悪くなった時は、遠慮なく申し出ましょう。



●次回掲載予定 2月18日(水) 第23回茨城県歯科医学会開催 平成27年2月22日(日) 水戸プラザホテル

